

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 27日は、低気圧が小笠原諸島の北を北上する。前線が東シナ海から西日本南岸付近にのびる。
- 28日から29日は、低気圧が日本の東を発達しながら北東に進み、高気圧が東シナ海から東日本日本海側に移動する。
- 30日から31日にかけて、低気圧が日本海北部から千島近海へ進む。前線が東シナ海から本州の南岸にのび、前線上に低気圧が発生する。

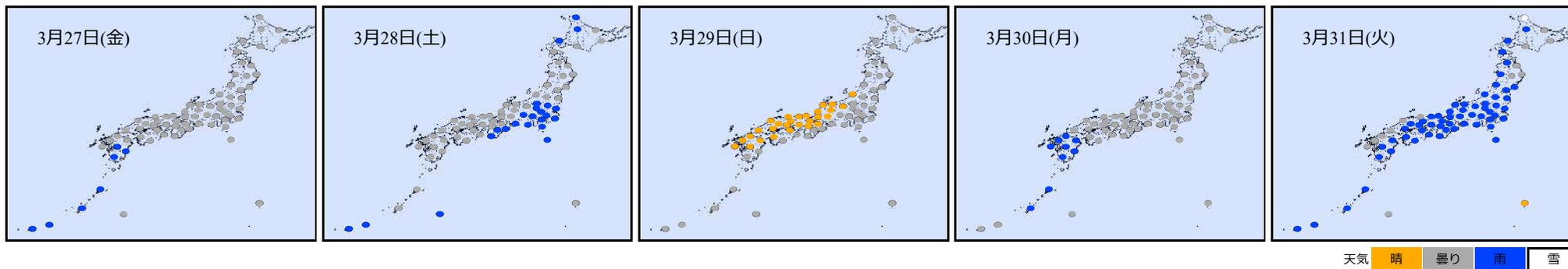
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

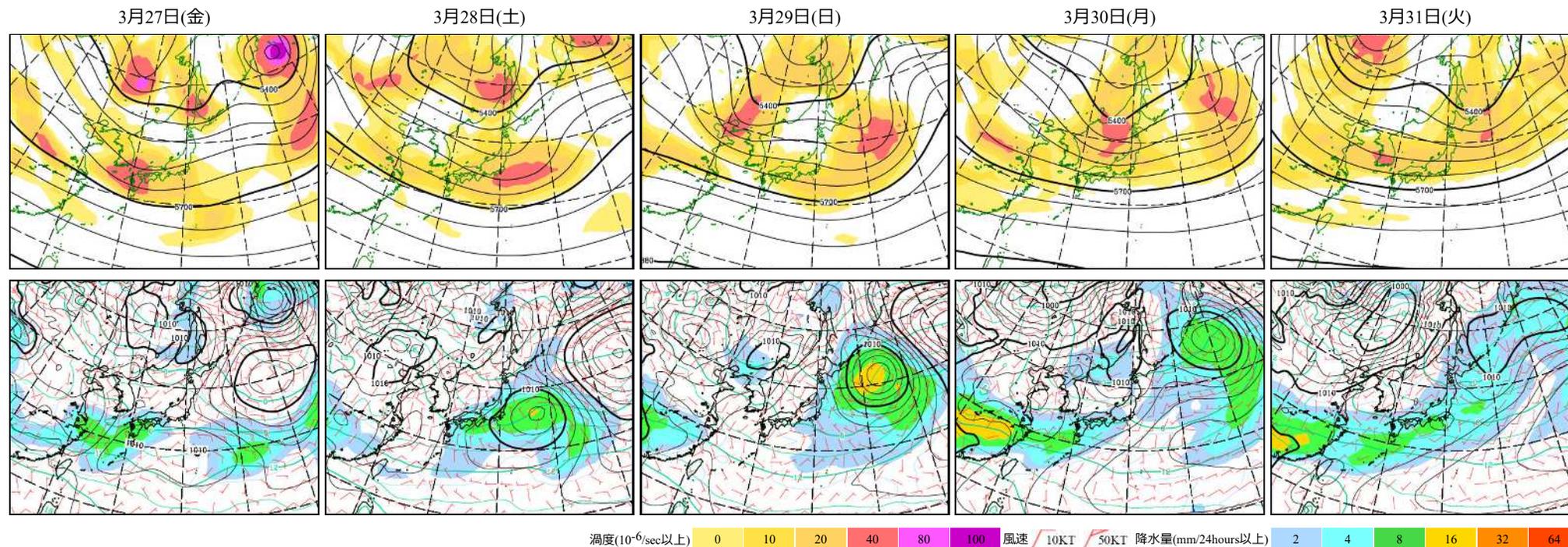
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

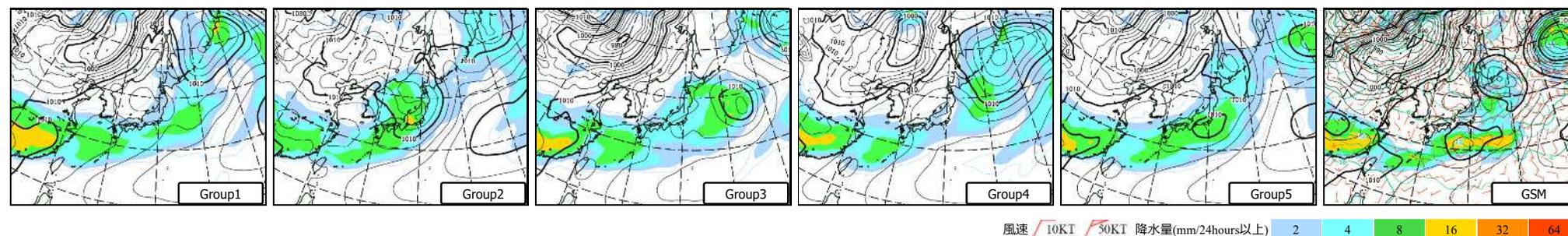


- 北日本は、雲が広がりやすく、28日と31日は、雨または雪の降る所がある。
- 東日本は、曇りまたは晴れの日が多いが、28日と31日は、雨の降る所がある。
- 西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、29日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月31日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日から31日にかけて東シナ海から本州南岸にのびる前線が明瞭となった。このため、30日は西日本から沖縄・奄美にかけての降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。
- モデル間の差は28日までは小さいが、その後は上空のトラフの進みや深さ等のばらつきが大きくなる。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。